

2015.02.23-2

# 福岡市西区今津干潟のコブハクチョウ、オオハクチョウ

毘沙門山(びしゃもんやま)177m



オオハクチョウ





各地の池で飼われており、野生化したものが見られ、繁殖していることもある。  
オオハクチョウやコハクチョウより、尾が長くとがって見える。あまり鳴かない。



コブハクチョウ(瘤白鳥) ガンカモ科 L=152cm



飛べる鳥では、最大クラス。  
10m以上助走しないと飛び上れない。





外国から連れてこられた物が野生化し、  
餌付けされたりして年中同じところにいたりする。



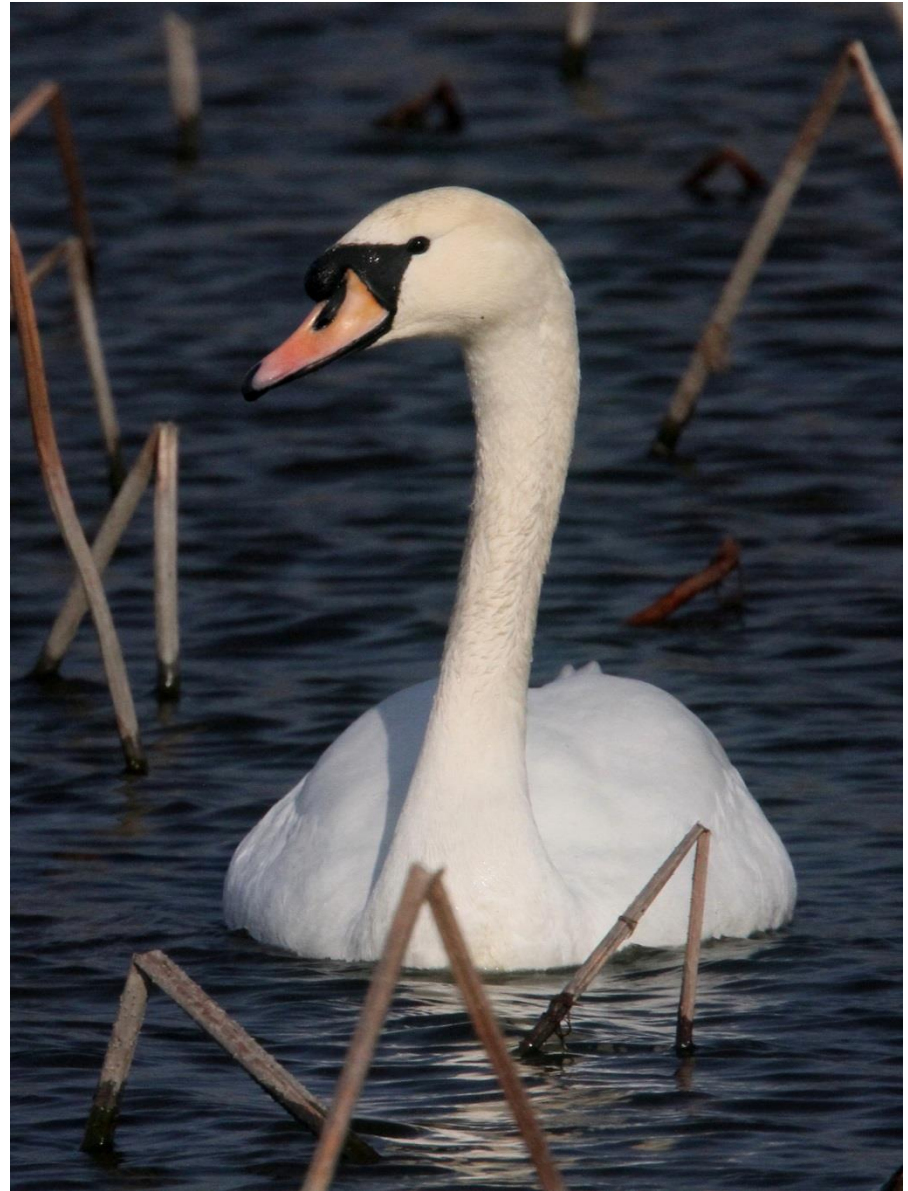


嘴の上に瘤(コブ)があり、名の由来です。





日本では1952年に飼い鳥として、ヨーロッパから移入したものが  
公園や動物園などで飼育された。しかし、飼育個体の一部が野生化し、各地に定着している。





ある程度の距離まで人間が近づくと鳥に「攻撃」されることがあるが、  
このような鳥の行動は、育雛中の親鳥によることがある。



コブハクチョウ(瘤白鳥) ガンカモ科 L=152cm



ハクチョウの中でも優雅な姿が好まれ、古代ローマの頃から飼育が始まっていた。  
中世では「王の鳥」と讃えられた。





西洋では古来より「ハクチョウが鳴き声を上げるのは死期が迫った時だけ」という俗信があり  
([スワン・ソング \(伝承\)](#) ([英語版](#)))、本種はそれに因んでMute(無音)と名付けられた。  
実際には全く啼かないと言う事は無く、必要に応じて様々な鳴き声を上げる事が知られている。



オオハクチョウ(大白鳥) ガンカモ科 L=140cm



長距離を飛翔する鳥としては最大級で、身体が重いため、離陸時は助走を必要とする。  
鳴き声は大きく、「コォー」と鳴く。



オオハクチョウ(大白鳥) ガンカモ科 L=140cm



シベリアやオホーツク海沿岸で繁殖し、日本には越冬のため  
千島列島を経由し渡来する。



オオハクチョウ(大白鳥) ガンカモ科 L=140cm



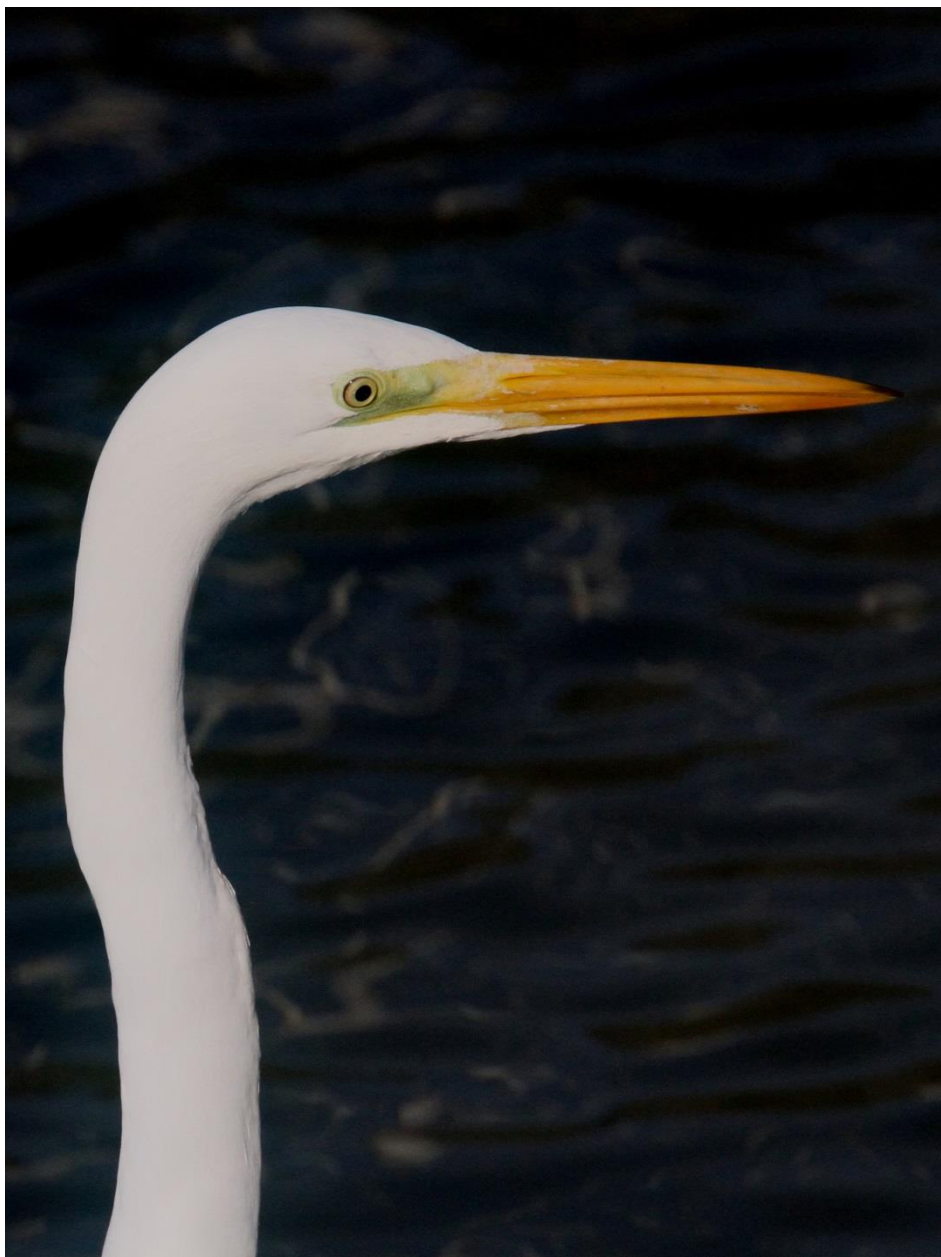
平地からの低山の明るく開けた林の中に生息する。冬の日本では人里や都市部の公園などでもよく見られ、身近な冬鳥の一つである。



ジョウビタキ(尉鶺鴒) ヒタキ科 L=14cm



世界の熱帯・温帯に広く分布するが、温帯のものは冬になると暖かい地方へ移動する。





コサギ同様さまざまな水辺で見られるが、九州から本州に  
夏鳥として飛来し繁殖するものと、冬鳥として飛来するものがある。



ダイサギ(大鷺) サギ科 L=90cm



体長は 90cm ほどで、日本ではアオサギと並ぶ最大級のサギ。  
全身の羽毛が白色。白鷺の一種



ダイサギ(大鷺) サギ科 L=90cm



アフリカ、アジアの熱帯・温帯に広く分布するが、温帯のものは冬になると暖かい地方へ移動する。繁殖はサギ科の仲間同士で寄り集まって、集団繁殖地の「サギ山」を作る習性がある。



コサギ(小鷺) サギ科 L=61cm



水田や川辺、海岸などで首を縮めて立っている姿がよく見られる。

魚類、カエル、ザリガニなどを捕食する。

獲物を捕らえる時は足でつつくようなしぐさをして、  
物かげから獲物を追い出してから捕らえることもある。



コサギ(小鷺) サギ科 L=61cm



繁殖地では開けた草原に生息し、越冬地では河川、湖沼、池などに生息する。越冬地では数羽から十数羽の群れを形成するが、数十羽の群れを形成することもある。



ハシビロガモ(嘴広鴨)オス ガンカモ科 L=50cm



嘴は幅広く、和名の由来になっている。  
英名 shoveler も シャベル 型の嘴に由来する。後肢は橙色



ハシビロガモ(嘴広鴨)オス ガンカモ科 L=50cm



河川、湖沼などに生息し、冬季になると内湾などにも生息する。  
食性は主に植物食で、種子、水生植物、海藻などを食べる。



メス



オス

ヨシガモ(葦鴨) ガンカモ科 L=48cm



中華人民共和国北東部、モンゴル、ウスリー、[シベリア](#)などで繁殖し、  
冬季になると東南アジア、[朝鮮半島](#)、中華人民共和国南部などへ南下し越冬する。  
日本では冬季に越冬のため飛来し(冬鳥)、北海道では少数が繁殖する。

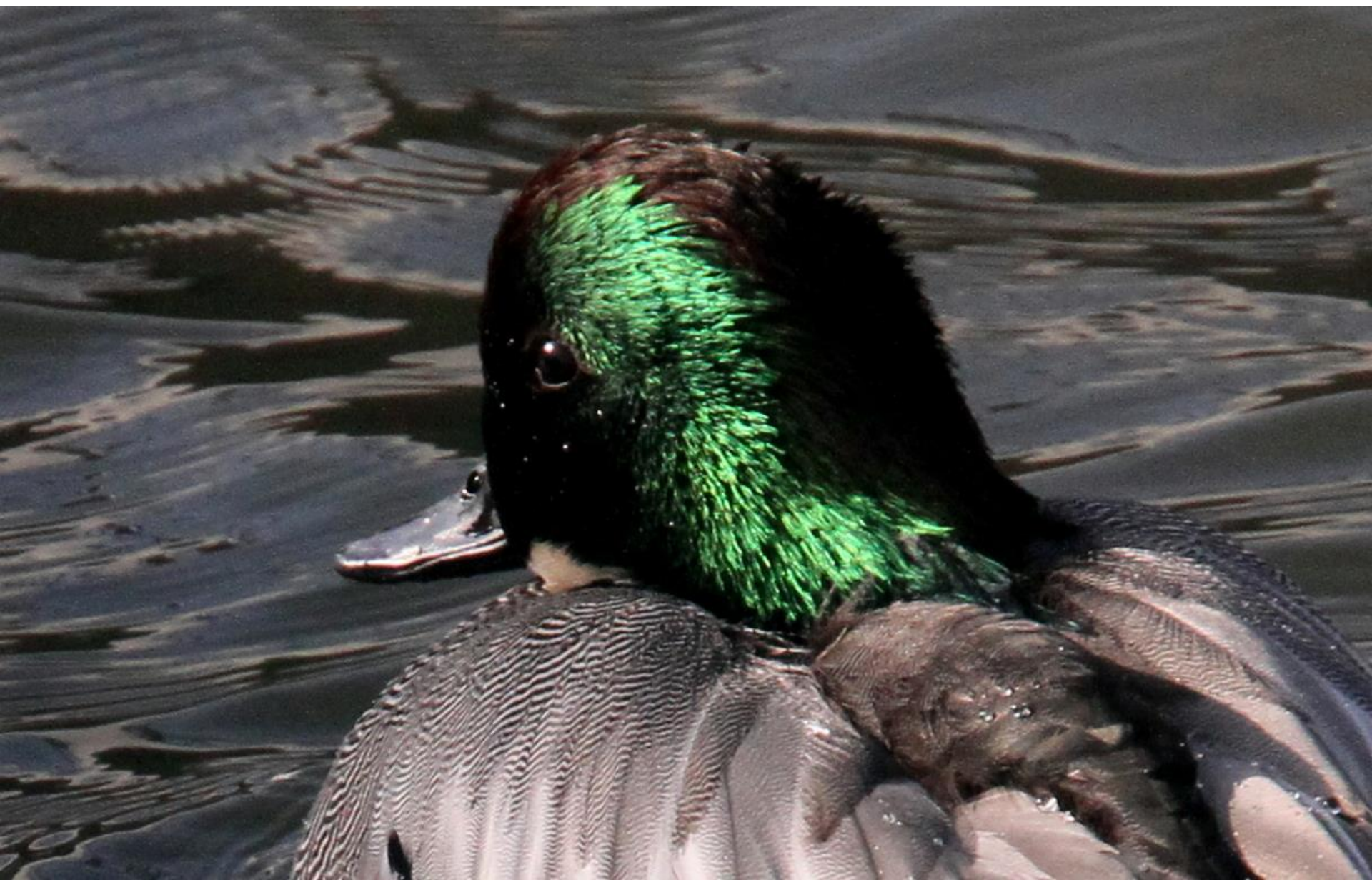


ヨシガモ(葦鴨) ガンカモ科 L=48cm



おむすび型の頭で、腰のあたりがふくらんで見える。全長：48cm

北海道では少数繁殖するが、多くは湖沼、河川、湾に冬鳥として飛来。ホーイと鳴く。



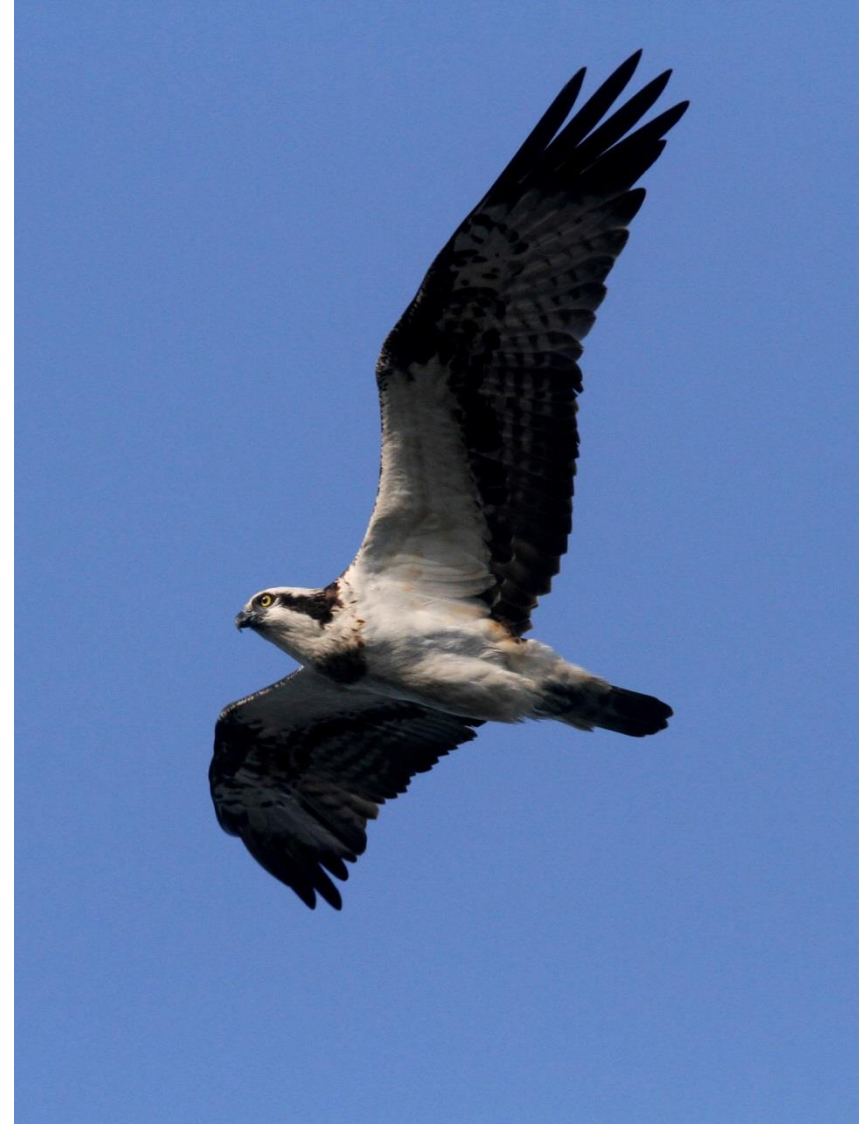


ミサゴ(鵟) ワシタカ科 L=メス64cm





魚を捕食することから「魚鷹(うおたか)」の異名がある。  
オスプレイという航空機は、2基のローターによって垂直離着陸が可能です  
が、この名はワシタカ科の鳥である「ミサゴ」の英語名が由来です。





ミサゴ(鵟) ワシタカ科 L=メス64cm  
メスの胸の褐色の前掛けはオスより大きい。





日本では冬鳥として、北海道から南西諸島まで広く渡来し、小型のカモメ類の大半が本種である。ただし、北海道では厳冬期にはほとんど見られなくな



ユリカモメ(百合鷗) カモメ科 L=40cm



海岸、内陸の湖沼や河川に比較的大規模な群を作り生活する。  
大きな河川では河口から10 km以上も遡る。



ユリカモメ(百合鷗) カモメ科 L=40cm  
後方は、オオハクチョウ